



ソーシャルディスタンスで配席した「THE オルガンDAY2020」の様子



今できることをみなさまとともに

愛知県芸術劇場は 感染症対策に取り組みながら みなさまをお迎えます。

事業報告書2020

愛知県芸術劇場と 新型コロナウイルス

事業報告書2020 愛知県芸術劇場と新型コロナウイルス

発行:愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜一丁目13番2号

TEL:052-971-5609

URL:<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

印刷:株式会社日総研印刷

発行:2021年3月

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  文化庁

はじめに

国内では1月に感染が確認された新型コロナウイルス感染症の影響により、愛知県芸術劇場では2月からホール等の利用取消しが相次ぎ、自主事業もやむなく中止せざるを得ない状況になりました。

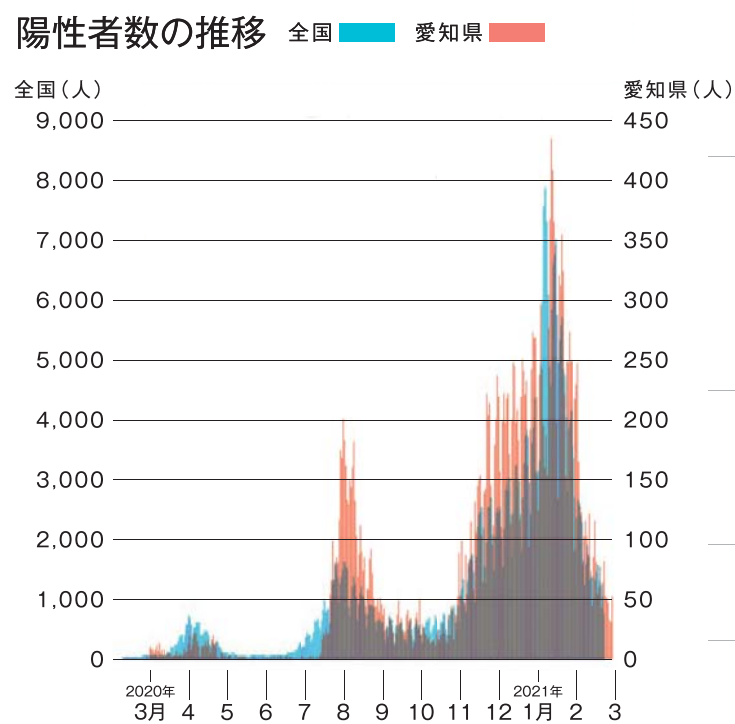
そうした中、制限がありながらも、4月から約1年間、劇場は活動の継続に向けて感染症対策を行ってきました。施設利用サービスでは、独自のガイドラインを策定し、やれること、やれるための方法を模索。自主事業では、鑑賞・参加の新たなアプローチを模索し、文化芸術活動に取り組んでまいりました。

これらの取り組みは、地域の利用者をはじめ、市町村劇場、関係団体の協力と、培ってきたネットワークをフルに活かすことで実現にいたりしました。

当劇場としては、1日もはやく感染症が収束することを願うとともに、今後も地域のつながりを大切にしながら、より多くの方が文化芸術を享受できるよう努めてまいります。

愛知県芸術劇場

新型コロナウイルス感染拡大による影響の変遷



社会の動き

- 2019年12月
 - 厚生労働省が「中国・武漢市において、12月以降、原因となる病原体が特定されていない肺炎の発生が複数報告されている」と発表
- 2020年1月
 - 16日、国内初の感染を発表
 - 26日、愛知県初の感染を確認
- 2月
 - 横浜に寄港したクルーズ船内で感染が確認される
 - 政府からイベント開催延期や中止の要請、全国一斉に臨時休校の要請を表明 ●国内のマスク不足が問題化する ●テレワークが広がる
- 3月
 - WHOがパンデミック(世界的な大流行)を表明
 - 大会組織委員会が東京オリンピック・パラリンピックの延期を発表
- 4月
 - 7日、7都府県に緊急事態宣言を発出
 - 16日、一度目の緊急事態宣言が7都府県から全国に拡大
- 5月
 - 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が「新しい生活様式」を提言
 - 14日から、緊急事態宣言が解除されはじめる
- 7月
 - 東京を除き、全国でGoToトラベル事業開始
- 8月
 - 東京都が酒類の提供を行なう飲食店およびカラオケ店に対し、営業時間短縮を要請
- 10月
 - 東京でもGoToトラベル事業が始まる
- 12月
 - GoToトラベルが全国一斉停止
 - 新語・流行語大賞の年間大賞に「3密」が選出される
- 2021年1月
 - 7日、関東1都3県で2度目の緊急事態宣言発出
 - 13日、緊急事態宣言のエリア拡大で愛知県も対象となる
- 2月
 - 緊急事態宣言の延長を発表

愛知県芸術劇場の動き

- 2020年2月
 - 公演中止の相談が起こりはじめる
 - 大ホール:2月24日の利用後に、7月16日まで利用なし
- 3月
 - 勅使川原三郎×佐東利穂子×庄司紗矢香『三つ折りの夜』の公演中止を発表。主催公演では初の中止
 - コンサートホール:3月8日の利用後に、6月9日まで利用なし
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用取消しに対し、施設利用料金の100%還付を決定
- 4月
 - 小ホール:4月3日の利用後に、7月9日まで利用なし
 - 25日から愛知県芸術劇場(愛知芸術文化センター)休館
- 5月
 - 休館中に施設利用サービスと今後の自主事業開催の可能性や実施方法を検討 →4~5P
 - 劇場再開の準備を始める
- 6月
 - 2日に愛知県芸術劇場(愛知芸術文化センター)再開
 - 「愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム2020」公演中止・内容変更を発表 →10~11P
 - 当劇場のガイドライン「新型コロナウイルス感染拡大予防対策のお願い」を発表 →4~7P
 - 公演日の振替やチケット発売日を変更する公演が増えはじめる
 - 「鑑賞&レビュー講座2020」オンラインゼミの実施を発表 →12P
 - 文化芸術のイベント継続を支援するために、大ホール・コンサートホール・小ホールにおける施設利用料金の50%減免を決定
 - 「アートマネジメント講座&劇場インターンシップ」の実施を発表 →13P
 - 「新しい生活様式」を取り入れた鑑賞公演「どうする!? アンデルセンさん!」創作開始 →11P
- 7月
 - サーマルカメラ導入。施設の利用者に貸出しを開始 →6~7P
 - コロナ禍における初の主催公演「勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ『白痴』開催 →8P
 - ワークショップ「赤ちゃんを踊ろう」をオンラインで開催 →10P
 - 「THE オルガンDAY2020」を開催し、動画を撮影。9月にYouTubeで配信 →10~11P
- 8月
 - 劇場施設および備品に抗菌コートを施工 →6~7P
 - 「どうする!? アンデルセンさん!」を開催
 - ※市町村劇場と連携して県内ツアーを実施 →11P
- 9月
 - 「今年は“おうちで”ファミリー・プログラム2020」の特設ウェブページをオープン →10~11P
- 10月
 - 「JAPAN LIVE YELL project@AICHI」開催を発表 →14P
- 11月
 - 第18回AAF戯曲賞受賞記念公演「朽ちた蔓延る」を開催し、動画を撮影。翌月に有料オンライン動画を配信 →9P
- 12月
 - 文化芸術活動の継続を支援するために、施設利用料金の納付期限を、6か月前から1か月前までに変更

中止または延期になった自主事業の公演数
59公演
(2020年3月~21年1月)

キャンセルになった劇場利用の件数
336件
※大ホール・コンサートホール・小ホール
のみの合計(2020年2月~21年2月)

事業報告書 2020 愛知県芸術劇場と新型コロナウイルス

施設利用サービスの動き〈準備編〉

いち早く再開し、活動を続けるために できること、できる方法を模索

愛知県芸術劇場は、自主事業と並んで施設利用サービス(いわゆる貸館事業)も盛況で、事業の2本柱としてきた。そんな中、1度目の緊急事態宣言が発出され、当劇場が入る愛知芸術文化センター全体が4月25日から6月1日までの休館を決定。休館の間、職員はテレワークを取り入れながら再開のための準備をはじめた。その1つとして取り組んだのがガイドライン作成。施設の利用者とご来場するお客さまをいち早くお迎えするためには、ガイドラインが必要だった。

5月29日には、年間を通じて施設を使う頻度の高い利用者や、同じ名古屋市内でホールを管理運営する名古屋市文化振興事業団をはじめとした県内の公立文化施設のスタッフを交え、オンライン会議を開催。より多くの視点や意見を反映できるよう努めた。

なお、愛知県では独自の文化芸術支援策として臨時的補助金交付や作品購入などによって広くアーティストを救済している。当劇場の施設利用料金減免も実施された。

安全性と公共性を改めて見直し 細やかなガイドラインが完成

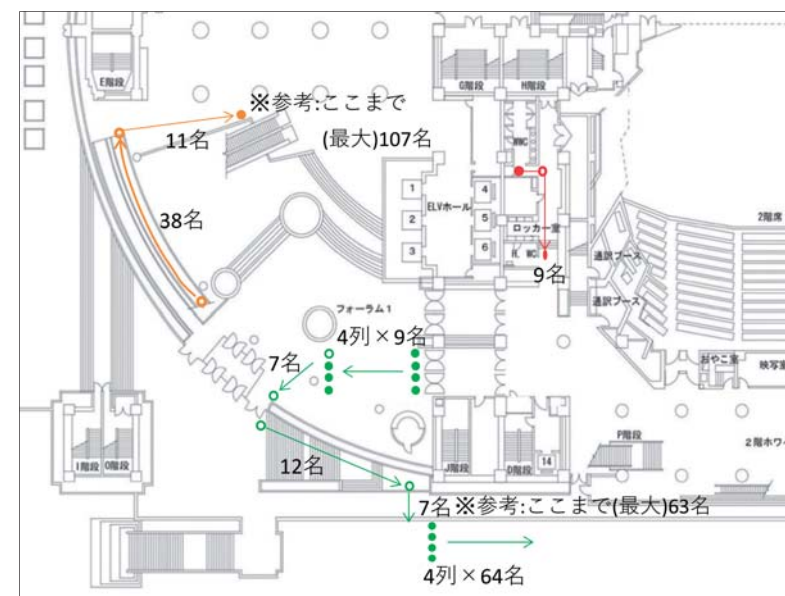
全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」と愛知県の「愛知県新型コロナウイルス感染拡大予防対策指針」をベースに当劇場のガイドラインを作成。できあがったガイドラインは、「新型コロナウイルス感染拡大予防対策のお願い」として発表。主催公演で実践するとともに利用者に、協力をお願いした。また、楽屋やホワイエなど施設利用の注意点、数や配置を考慮した客席図面、観客の入退場方法を細やかに案内するなど工夫を凝らした。



オンライン会議の様子

愛知県芸術劇場の感染症対策に関する意見聴取会

出席団体(50音順・敬称略)
愛知県芸術劇場、愛知県文化芸術課、サンデーフォークプロモーション、
豊田市民文化会館、長久手市文化の家、名古屋市文化振興事業団、
名古屋フィルハーモニー交響楽団、穂の国とよはし芸術劇場PLAT



施設利用者向け整列入場ガイド(2階) ※図面の一部拡大

ホールへの入場列や、トイレを待つ列の整列ガイドを設けた。また、人が密集しやすいエリアでは、間隔を空けて整列いただけるように、利用者には十分なスタッフの配置をお願いした。

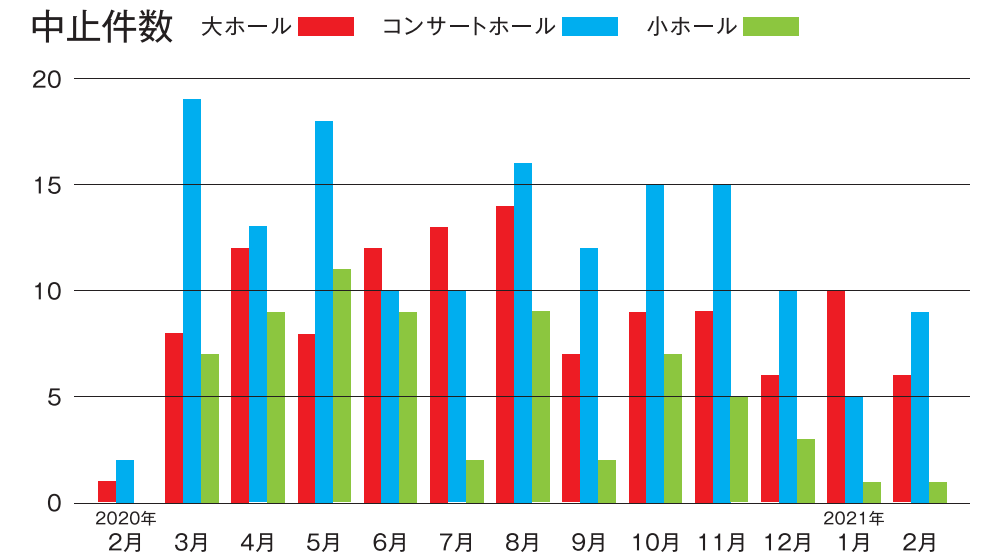


施設利用者向けコンサートホール配席案

※図面の一部拡大

収容率は50%を目安とし、客席数・配席は、前後左右に間隔を空けて配置。また、自由席の場合は、開場前に座席確保を目的として人が密集する状況が起こりえる。蜜を避けるためにも、できるだけ指定席を推奨している。

利用状況の推移



前年度との比較

	2019年度		2020年度 (2020年4月~21年2月)	
	ホールの利用率	入場者数	ホールの利用率	入場者数
大ホール	80.6%	287,315人	21.3%	31,383人
コンサートホール	76.1%	227,238人	40.5%	41,488人
小ホール	71.4%	26,998人	66.3%	8,762人

施設利用料金の減免と納付期限の変更を実施

施設利用の取消しは徐々に増え、利用の状況は大きく変化した。当劇場では愛知県が独自に掲げた文化芸術支援策に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにやむを得ず利用取消しを申請した場合は、大ホール、コンサートホール、小ホール、大・中リハーサル室の施設利用料金を100%還付。また、文化芸術イベント継続を支援するために大ホール・コンサートホール・小ホールの施設利用料金は通常の50%に減額。さらに、先の100%還付対象を実施した施設における利用料金の納入期限を、施設利用日の6か月前から1か月前に変更するなど、文化芸術復興の後押しになるよう取り組んだ。

オンライン会議
参加者の声

サンデーフォーク
プロモーション

佐藤和宏さん



当社では、3月から5月にかけて500件ほどの公演が、中止や延期になってしまいました。愛知県芸術劇場さんには、どのような方法なら公演が出来るのか、お客様に安心してお越しいただくためにできる対策は何かなど相談させていただきました。一日も早くお客様をお迎えしたかったので、利用料金の還付や、サーマルカメラ設置、抗菌コート施工などの素早い対応はありがたかったです。

名古屋フィルハーモニー
交響楽団

山元浩さん



感染拡大を最小限にとどめるため、2月27日以降、全ての演奏活動を中止していました。聴取会では、当時のオーケストラの状況をご説明し、再開後の収容人数制限や配席方法についての不安をお伝えしました。各劇場さんとの意見交換を踏まえ、当団としても対応をあらためて検討し、7月には約5か月ぶりに定期演奏会を開催することができました。

施設利用サービスの動き〈実践編〉



舞台備品も可能な限り抗菌コート処理



感染拡大予防対策への協力をお願いする来場者向けポスター



マイクの使用後は、専用の除菌スプレーを噴霧



来場者が整列する場合のソーシャルディスタンスの目安を案内



体温を検知できるサーマルカメラのテスト風景

ハード面では先端技術を積極導入 スタッフは笑顔を忘れず水際対策

ガイドラインの作成を終え、いよいよ実践開始。ハード面では専門業者による抗菌コートに予算を割いた。抗菌コート後も月2回程度の劇場内の消毒を行なっている。また、各ホールのエントランスで来場者の体温を検知できるサーマルカメラを導入。異常がある際はスタッフが迅速に対応できるようにテストを重ね、大きなトラブルなく現在に至っている。なお、このサーマルカメラは施設利用者にも無料で貸出しを行なっている。他にもエントランス、楽屋口、搬入口に消毒液を設置、飛沫防止ボードの貸出、施設利用受付窓口にアクリル板を設置するなどの対策に取り組んだ。

このように徹底して感染拡大予防対策実施中であることを施設利用者にも来場者にも示すため、館内では様々な掲示物を通じて注意喚起。劇場に集うすべての人の協力が必要であることを強くアピールしている。同時に、ソーシャルディスタンスの目安となる足元サインを新設するなど、わかりやすく感染拡大予防の行動を促す工夫も凝らした。



館内のいたるところ、あらゆるものを抗菌コート

現場スタッフの声

愛知県芸術劇場
ホール支配人
富田顕生さん



劇場をご利用いただく立場として、安全性を担保しながら、いかにご利用者様の要望に応えられるかをモットーにしています。公演ごとに内容が異なるため、事前の打合せでは、収容人数や入場動線など、綿密な打合せを行ないます。また、現場ではご来場されたお客様のご意見等をフィードバックし、安心・安全・サービスの向上につながるよう心がけています。

金井大道具NAGOYA
共同企業体 技術監督
西川 伸治郎さん



劇場の舞台技術スタッフは、出演者の近くにいる機会が多いため、日々の検温やアルコールスプレーの携帯など細心の注意で準備を進め、公演に臨んでいます。主催者や外部の舞台技術スタッフの要望はそれぞれ違いますが、場合によっては劇場の内外で靴を履き替えるなど、寄り添う姿勢を大切にしています。また、施設をはじめ、平台や譜面台等の備品に抗菌コートが施されているため、喜ばれています。



現場においても技術スタッフは、マスクを着用



施設利用受付窓口でもアクリル板などを使って感染拡大予防対策を徹底

自主事業—鑑賞公演

with CORONA

新型コロナウイルス感染拡大予防対策を徹底して再開した当劇場は、観客が待ち望む鑑賞公演の充実に励んだ。幕開けは奇しくも、2020年4月に当劇場初の芸術監督に就任したばかりの勅使川原三郎の公演となり、国際的アーティストの作品発表は象徴的にメッセージを放つこととなった。公演の行なわれた7月はまだ、公立・民間を問わず多くの劇場が再開の方法に不安を抱えていた最中。当劇場は、県はもちろん東海エリア全体の文化芸術の歩みを進めるべく、実践によって劇場の存在意義を力強く示した。

芸術監督就任記念シリーズ「白痴」パンフレットより

ここにまず申し上げたいことは、劇場活動が長期の完全停止という過去に経験したことがない状態から解放され、本来の劇場機能を取り戻すことができる喜びを関係各位の皆様と分かち合いたいと思います。さあ、これから始まりです。これが4月に就任した愛知県芸術劇場芸術監督としての初めての言葉であります。長い助走でしたが、これから本格的に走り出します。現在進行中の健康被害への対策は、劇場施設全体として最善を尽くした上で、日々細心の工夫を講じるべきだと考えています。

常々、心していることですが、私は芸術監督の仕事と作品の創作上演者の立場を分けます。私は主観的に仕事をしたくないからです。しかし劇場の新たな出発の第一歩目が、タイミングとして偶然にも元来予定していた公演日程と重なり、私の作品の上演になるのですが、むしろ、ありがたい光栄と受け止め、新たな出発の責任を晴れやかに感じて、これからの多くの楽しみを生み出す劇場の扉を開けたいと思います。

愛知県芸術劇場芸術監督
勅使川原三郎



子どもたちも来場!

『白痴』



©Naoshi Hatori

コロナ禍における初の鑑賞公演

日本のダンスをリードし続け、国内外でオペラの演出なども手がける国際的アーティスト、勅使川原三郎の芸術監督就任記念シリーズ第1弾。勅使川原が信頼を寄せる佐東利穂子との共演で、ロシアの文豪ドストエフスキーの『白痴』を劇的かつシャープな舞踊作品として見せた。定員の50%に制限した客席は3公演とも完売。カーテンコールの拍手からも、観客の鑑賞公演に対する熱い想いが伝わってきた。また、美術家の顔も持つ勅使川原はドローイング展『見知らぬ国』も同時開催。愛知県美術館を擁する複合文化施設・愛知芸術文化センターの特徴ともあいまって好企画となった。

**勅使川原三郎芸術監督
就任記念シリーズ『白痴』**
2020年7月17日～19日 3公演
愛知県芸術劇場小ホール



愛知県芸術劇場オルガニスト・都築由理江の手元を投影

クリスマスはオルガンだ!
2020〜ハーブと共に〜



©Naoshi Hatori

客席数は減らしても追加公演でカバー!

当劇場はソーシャルディスタンスを保つために、7月から販売席数を減らし、主催公演を開催してきた。そんな中、プロデューサー選りすぐりの今こそ観てほしい才能を紹介する「ダンス・セレクション」と12月恒例の「クリスマスはオルガンだ!」の2公演は、チケット販売が好調。お客様のニーズに応えるため、出演者、会場、スタッフ、パンフレットなどの調整を図り、追加公演を決定。公演回数を増やすことで、舞台を待ち望む方々が、なるべく鑑賞できるように努めた。また、「クリスマスはオルガンだ!」においては、視覚に障がいのあるお客さまのための事前説明会も実施。コロナ禍においても、劇場が多様な人々の集える場であることを示した。

ダンス・セレクション2020
2020年10月2日・3日 2公演
愛知県芸術劇場小ホール

**クリスマスはオルガンだ!
2020〜ハーブと共に〜**
2020年12月22日・23日 2公演
愛知県芸術劇場コンサートホール

劇場公演とオンライン配信のハイブリッドで開催

劇作家の発掘・育成を目的とするAAF戯曲賞は、受賞の翌年以降に愛知県芸術劇場のプロデュースで公演することが特徴になっている。今年度の演出は、当戯曲賞の審査員も務めた篠田千明。本来は戯曲に描かれた市民役を観客が演じる参加型の演出だったが、感染拡大防止が課題になり、予定を変更。市民役を一般から募集し、舞台上にエリアを区切った座席を用意。舞台と観客席は間隔をあけて上演した。さらにアーカイブのオンライン配信も実施。ハイブリッドでの開催を実践し、新たな観客層の取り込みにつなげた。

**第18回AAF戯曲賞受賞記念公演
『朽ちた蔓延る』**
2020年11月7日～9日 3公演
愛知県芸術劇場小ホール
※2020年12月26日～2021年1月17日、
アーカイブのオンライン配信を実施



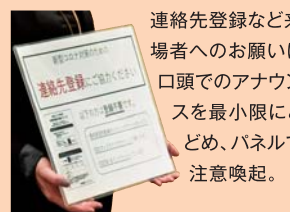
『朽ちた蔓延る』



感染拡大防止対策事例



コロナ禍の鑑賞公演1作品目の『白痴』では、客席の間隔をかなり大きくあけて配置。退場の際はブロックごとに順次誘導。「密」の回避を図った。



連絡先登録など来場者へのお願いは、口頭でのアナウンスを最小限にとどめ、パネルで注意喚起。



チケットは、来場者自身が半券を切り取って回収箱に入れるスタイル。



チケットブースは、飛沫感染防止のため、アクリル板を立てて対応。



滞在時間を長引かせ、回収時に密になるアンケートは、オンラインで対応。自宅からでも入力できることをアピール。



全館に抗菌コートを実施。全館に抗菌コートを実施。全館に抗菌コートを実施。全館に抗菌コートを実施。全館に抗菌コートを実施。

自主事業—ファミリー・プログラム

探求心や感性を刺激する 新たな方法を試行錯誤



子どもも大人も一緒に体験できる企画を提供してきた「ファミリー・プログラム」は、コミュニケーションが密だからこそ楽しい面も大きく、方向転換に苦慮した。公演数や入場者数を制限したり、ソーシャルディスタンスをとった座席を工夫したりと、劇場内でできることは最大限努めたが、オンラインに切り替えるの実施にも精力的に挑戦。試行錯誤は続いているが、動画や配信ならではの利点にも気づかされた。

ただし、海外招聘公演は対応が難しく、ノルウェーから来日予定だった「ディブウィック・ダンスカンパニー」の「えんどうまめとおひめさま」公演が中止となる。ところが、これをきっかけに予定外の新作「どうする!? アンデルセンさん!」が生まれたのは、コロナ禍における貴重な財産。「えんどうまめとおひめさま」同様、童話作家アンデルセンの世界を下敷きにした「どうする!? アンデルセンさん!」は、鳴海康平や白神ももこら気鋭のアーティストの協力のもと制作され、愛知県内4会場のツアー公演を実現。これまで築いてきた県内の公立文化施設のネットワークを活かすことにより実現した。



©とりやま ゆり

「新しい生活様式」を取り入れ、 新たな作品の創作を実現

当劇場ではコロナ禍でも新作に挑戦。アンデルセンの童話を題材に、体験型パフォーマンス「どうする!? アンデルセンさん!」を制作した。本作は換気されているホールで、上演時間を15分とした。消毒の範囲にも気を配り、徹底。1ステージの観客は4組限定とする一方、家族など来場グループ同士にソーシャルディスタンスを設けることで、子どもたちも安心して鑑賞できるよう配慮。また、マスクを衣装に取り入れるなど「新しい生活様式」にも劇場らしい創意工夫を凝らした。結果、もともと計画をしていた『えんどうまめとおひめさま』の県内ツアーは叶わなかったが、本公演で県内4会場をツアーできたことは当初の計画外の成果であり、新たな道の開拓となった。この市町村連携の手応えは「JAPAN LIVE YELL project@AICHI」(14P参照)へとつながっていく。

体験型パフォーマンス 「どうする!? アンデルセンさん!」

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 2020年8月5日・8日・9日 12公演
愛知県芸術劇場小ホール | 2020年8月15日 4公演
名古屋市瑞穂文化小劇場 |
| 2020年8月7日 4公演
名古屋市千種文化小劇場 | 2020年8月20日 4公演
幸田町民会館つばきホール |



名古屋市文化振興事業団とスタッフ人材交流で連携し、実施した



プロジェクト大山のメンバーが画面の向こうに登場!

モニターを見ながら 自宅で踊ってリフレッシュ

赤ちゃんとおひめさまと保護者が抱っこやおんぶなど日常の動きの延長線上で踊るワークショップも、オンラインに切り替えて実施。講師のダンスカンパニー「プロジェクト大山」のメンバーはモニター越しでも元気はつらつ。11組のファミリーを優しくナビゲートした。

赤ちゃんとおひめさま
オンライン
2020年7月25日
オンライン開催



終演後、動画配信のために行った撮影の様子

鑑賞公演を開催する一方で 自宅で楽しめる動画配信も!

幼児・子どもに分けて例年2回公演するところ1回に変更。3歳から小学生ぐらいまでと一緒に楽しめるプログラムとして、ピタゴラスイッチのテーマやヒット曲「パプリカ」などを取り入れた。なお、終演後には無観客で演奏を撮影。YouTubeで配信 중이다。

THE オルガンDAY2020
2020年7月30日 1公演
愛知県芸術劇場コンサートホール

2020年9月1日~
動画配信



笑顔を誘うソーシャルディスタンスの案内

THE オルガン
DAY2020の
動画はこちら!



裏側を紹介! 劇場に行きたくなる!!

大人気の参加型企画「げきじょうたんけんツアー」は、劇場で開催の予定から大ホールの裏側を紹介する動画の撮影、配信に変更。16分ほどの動画にしてYouTubeで配信し、子どもたちに少しでも探検気分を味わってもらった。配信は日時にとらわれず誰もがアプローチできるので広報効果も得られた。

げきじょう
たんけんツアー
2020年9月25日~
動画配信



げきじょう
たんけんツアーの
動画はこちら!





知恵と結束で人々にアートな日々を!

普及啓発プログラムは鑑賞公演と同様、重要な位置づけにある。コロナ禍においても可能な方法を模索し、内容を変更しながらアートと人、まちと人、人と人をつなぎ続けた。

当劇場の声かけで2018年からスタートした「久屋ぐるっとアート」は、名古屋の繁華街・栄の北側「久屋」エリアで展開される回遊型のイベント。愛知県美術館など愛知芸術文化センター内にある施設はもちろん、商業施設、放送局、教育機関、観光施設ほか多様な団体が参加し、文化的プログラムを展開してきた。今年度も中止を前提とはせず、できること、できるやり方を協議。無事開催の運びとなり、子どもから大人までを楽しませ、まちに活気をもたらした。

また、「鑑賞&レビュー講座」、外国人向けワークショップ「赤ちゃん和踊ろう」はオンライン開催に変更して実施。多様な人や思考、文化がアートを通じて交わることは、誰もが共生できる社会にもつながっていく。特にコロナ禍で分断や孤立が問題化する中、アートの必要性・可能性を再確認できた。

コロナ禍でも地域のつながりを念頭に……

JAPAN LIVE YELL project@AICHI (14P~参照)と連動し、実施。楽隊のバレードやパントマイム、有松・鳴海絞りの展示およびワークショップほか多彩な催しが屋外で行なわれ、3密回避と同時に、通りがかった人たちにアートの楽しさや喜びを広く伝えることもできた。なお、屋内イベントは入場者数の制限や検温・手指消毒などを徹底。好評のスタンプラリーはシールに変更するなど、不特定多数の接触回避に気を配った。

久屋ぐるっとアート2020

2020年10月31日~11月3日
久屋(栄北)エリア一帯



※上記は普及啓発事業全プログラムの中から一部を紹介

オンラインでつながる舞台芸術の楽しみ方を模索

通常はワークショップ的にわいわいと進行する本講座は、前・後期合わせて7回をオンライン開催に変更。受講者は前期で書いて伝えることの基礎を学び、後期では実際に公演を鑑賞して実践に移した。オンラインながら受講者同士で文章を読み合うといった趣向もあり、人と人との交流にもつながった。

オンラインゼミ 鑑賞&レビュー講座2020

ナビゲーター:竹田真理(ダンス批評家)
ゲスト講師:萩原雄太(ライター・演出家)※8月5日のみ。

前期

7月1日「批評とは何か?」

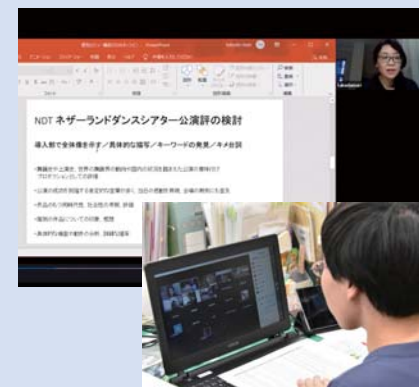
7月22日「舞台芸術を言葉にする」

8月5日「読みたくなる・読ませたくなるライティング」

8月19日「知っておきたいダンス史・批評史」

後期・実践編

対象公演:ダンス・セレクション、「朽ちた蔓延る」、「調べ」
10月15日・11月26日・12月24日



言葉のサポートで身体を使って交流!

愛知県に暮らす外国人は約28万人と、全国で2番目に多い。2020年9月~21年2月にかけて県が開催した「多文化子育てサロン」(全7回)の第4回目では、当劇場と共催でダンス・ワークショップ「赤ちゃん和踊ろう」を開催。ダンスカンパニー「プロジェクト大山」の古家優里がナビゲートしながら、参加者は抱っこやおんぶをしながら身体を動かす感覚を体験。製造業の多い愛知では母語がポルトガル語の県民も多いことから、言語は日本語とポルトガル語が用いられた。

多文化子育てサロン 第4回

「赤ちゃん和踊ろう オンライン」

12月20日

ナビゲーター:古家優里(プロジェクト大山)

言語:日本語・ポルトガル語

※愛知県多文化共生推進室との連携



アートを生み出すのも支えるのも人、人、人

人材養成プログラムも当初の予定を適宜アレンジ。年間を通じて、合唱の訓練以外のすべてを実施した。この分野は実技や実践が欠かせないため、オンラインを活用しながらも現場での体験を重要視。ハイブリッドの取り組みで本来の目的に立ち向かった。

アーティストを対象としたプログラムでは「オルガニスト養成事業」「第20回AAF戯曲賞」など恒例事業を変わらず実施。AAF戯曲賞は新型コロナ以前から公開最終審査会のリアルタイム配信を行っており、事業の周知や審査の透明性に注力してきた経緯がある。さらに、振付家・ダンサー養成プログラムとして「芸術監督 勅使川原三郎 演出・振付 ダンス『風の又三郎』」(2021年度開催)に出演するオーディションダンサーたちのワークショップ・稽古を行ない、東海エリアのアーティストたちを大いに刺激した。

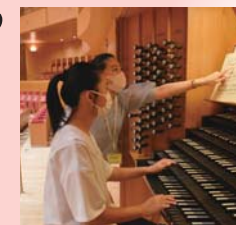
マネジメントに携わる人を育成する「舞台芸術人材養成ラボ」では、例年のプログラムを変更して座学・実習・現場体験など段階を追って進める「アートマネジメント講座&劇場インターンシップ」を実施。全国の公立文化施設の職員が集まる「劇場職員セミナー」は例年に劣らぬ規模で開催された。劇場職員セミナーでは「劇場と新型コロナの法律問題」といった今まさに直面しているテーマの講座もあり、情報共有に役立てられた。また、社会的包摂への関心が高まり、各方面から要望の多い「ソーシャルインクルージョン ワークショップ」を今年度も開催。コロナ禍においても障がいのあるお客さまへの対応や取り組みにも力を入れた。



距離を取りながら、受講者の気持ちに寄り添う

オルガニスト養成事業

2020年7月~8月
実技レッスン3回
愛知県芸術劇場
コンサートホール
講師:都築由理江(愛知県芸術劇場オルガニスト)



芸術活動が変化する社会に応じて作品選出

第20回AAF戯曲賞 公開最終審査会

2021年1月10日
愛知芸術文化センター・アートスペースA
※リアルタイムの配信も実施
審査員:白神ももこ(演出家・振付家・ダンサー)、鳴海康平(演出家)、羊屋白玉(演出家・劇作家・俳優)、三浦基(演出家)、やなぎみわ(アーティスト)



全員マスク着用で、新感覚の学びあり

振付家・ダンサー養成プログラム

芸術監督勅使川原三郎
演出・振付 ダンス公演
宮沢賢治原作「風の又三郎」
出演者オーディション・ワークショップ

2020年10月~21年3月 8日間
愛知県芸術劇場大リハーサル室
講師:勅使川原三郎、佐東利穂子



東海圏にゆかりのあるオーディションで選ばれた11名のダンサーが稽古をしている様子

アーティスト人材養成事業

舞台芸術人材養成ラボ

就職活動も意識した学生たちを応援!

アートマネジメント講座&劇場インターンシップ

アートマネジメント講座
2020年8月・9月 5日間
劇場インターンシップ
2020年10月・11月 14日間
愛知芸術文化センター・アートスペースA ほか



講義の際は、参加者がお互いの距離をとれるよう配慮



大ホール調光室での実習の様子

劇場職員セミナー2021

2021年1月20日~22日 17プログラム
愛知芸術文化センター
※オンライン講座も実施。

ソーシャルインクルージョンワークショップ2021

2021年1月28日~30日
愛知県芸術劇場小ホール
※リアルタイムのオンライン配信も実施。



講座「劇場と新型コロナの法律問題」の様子

計 県内14か所**35公演**へのべ**22,000人**以上の一般の方が参加!
JAPAN LIVE YELL project@AICHI

出演者・スタッフはのべ**1,100人**以上が参加!

出演者(プロ)344人、出演者(アマチュア)438人、
 スタッフ(舞台技術)151人、スタッフ(制作運営)211人が参加

新型コロナウイルスによる
**市町村劇場の自主事業への
 影響に関する調査**

2020年前半に強化された
ネットワークは秋になって花開いた!

新型コロナウイルスの感染拡大によって、劇場や文化芸術団体はかつてないほど意見を交換し、手を取り合って前進してきた。その成果は10月以降、「JAPAN LIVE YELL project@AICHI」として花開き、実を結ぶ。当劇場が声かけをして始まったこのプロジェクトでは県内の実演家団体と市町村の劇場が協力・連携し、クラシックコンサートや演劇、ダンスなどのイベントを県内14か所で約4カ月にわたって開催。制作・運営は愛知県芸術劇場、名古屋市文化振興事業団、豊橋文化振興財団が中心を担った。なお、感染症対策を徹底するのはもちろんのこと、料金にも配慮。コロナ禍で行動が制限される中、少しでも多くの人々の身近に文化芸術を届けられるよう努めた。

あいちオーケストラフェスティバル

東海エリアのプロオーケストラ4団体の協力のもと特別演奏会を3会場で4日間開催。料金を500円という安価に設定したことで、クラシック初心者入門編としても好評を得た。



セントラル愛知交響楽団公演より

久屋プロジェクト

「久屋ぐるっとアート2020」(12P参照)の連携事業。JAZZやオルガンの演奏会、有松・鳴海絞りの作品展示及びワークショップなどを開催し、まちや人と共にアートに触れる機会を創出した。

2020年10月31日~11月3日 久屋(栄北)エリア



日本キリスト教団名古屋中央教会礼拝堂でのパイプオルガンコンサート&トークショーの様子

2020年11月5日
 愛知県芸術劇場コンサートホール
 指揮:山田和樹
 演奏:愛知室内オーケストラ

2020年12月2日
 春日井市民会館
 指揮:古谷誠一
 演奏:セントラル愛知交響楽団

2021年1月31日
 幸田町民会館さくらホール
 指揮:粟辻 聡 ヴァイオリン:郷古 廉
 演奏:中部フィルハーモニー交響楽団

2021年2月13日
 愛知県芸術劇場コンサートホール
 指揮:横山 奏
 演奏:名古屋フィルハーモニー交響楽団

三河プロジェクト

奥三河を拠点とする和太鼓グループ「志多ら」のコンサートを開催。豊橋では市内の小学6年生を対象に学校鑑賞会を実施。豊田では高校生以下を無料、一般1,000円という価格で熱演が披露された。なお、学校鑑賞会は会場までの送迎も一部行なわれ、感染症対策に十分配慮した。

●和太鼓 志多ら コンサート
 2020年10月12日・13日
 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
 対象:豊橋市内の小学6年生

2020年10月14日
 豊田市民文化会館
 対象:一般



全身に響く和太鼓の迫力に、子どもも大人も大興奮



ご来場いただいた
お客さまの声
 (来場者アンケートより)

**あいちオーケストラフェスティバル
 セントラル愛知交響楽団@春日井**

コロナで今年コンサートを控えておりましたが、思い切って応募させていただきました。中へ入りましたら、席も対策されていて、びっくりしました。この感じならぜひまた来たいです。



春日井市民会館の客席の様子

**名古屋・尾張プロジェクト
 「ナゴヤ大文化祭り」**

コロナ禍でもこのようなイベント企画され、出演者の方々、司会の方々、会場のスタッフさん企画に携わった全ての皆さんに感謝致します。

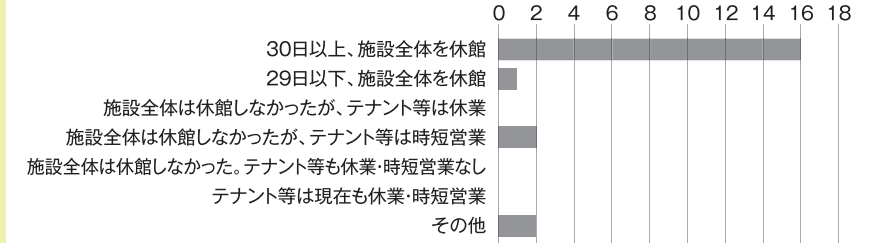
三河プロジェクト

和太鼓 志多らコンサート@豊橋

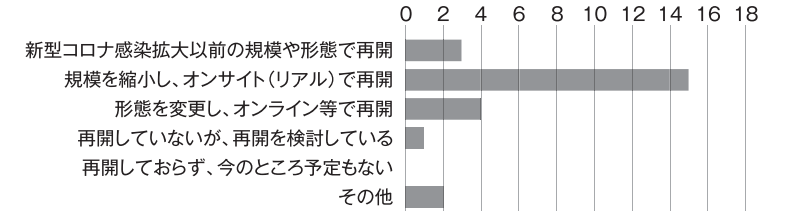
みなさんがめっちゃ笑顔で、ニコニコしてたたいて、「すごい!」と思いました。私も、「志多ら」の人たちみたいに大勢の人を笑顔にできるようにこれからがんばりたいと思います。

2020年12月 愛知県内の市町村の劇場20施設を対象に実施

新型コロナウイルスの影響で休館しましたか

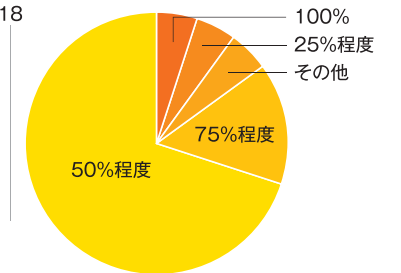
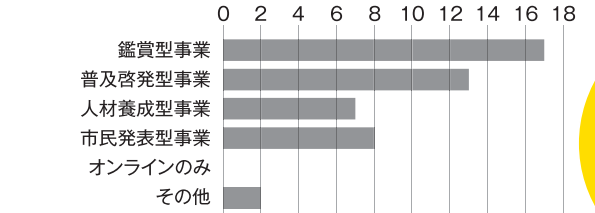


自主事業を再開しましたか

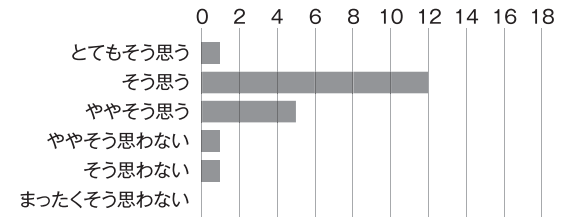


自主事業の収容率は約何割で設定していますか

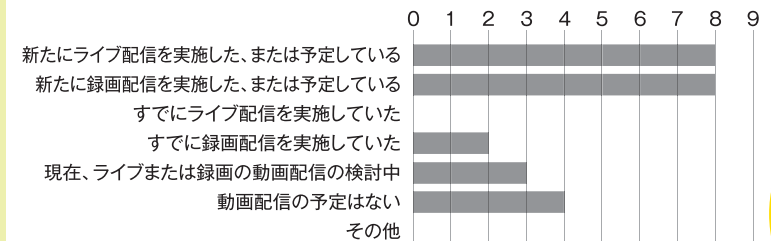
どのような自主事業を再開しましたか



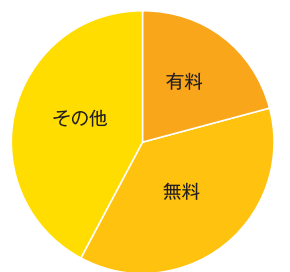
自館の感染症対策で来場者は安心していると思いますか



動画配信は実施していますか



動画配信は有料ですか、無料ですか



名古屋・尾張プロジェクト

名古屋の劇場や文化芸術団体が多彩なプログラムを実施。プロの作品発表もあればアマチュア団体の文化祭のイベントもある構成で、観る人・やる人どちらにも活気を促した。

●東海ゆかりの能・狂言

(配信のみ)
 2020年10月24日
 名古屋能楽堂

●劇団うりんこ

『小学校は宇宙ステーション』
 2020年11月8日
 名古屋文理大学文化フォーラム
 (稲沢市民会館)中ホール

『学校ウサギをつかまえる』

2020年11月15日
 うりんこ劇場

●ナゴヤ大文化まつり

2020年11月15日
 日本特殊陶業市民会館
 ビレッジホール
 出演:名古屋市文化小劇場で活動するアマチュア団体

●創作舞踊劇

『名古屋城 天守物語』
 (配信のみ)

2020年12月12日・13日
 名古屋市芸術創造センター
 企画・制作:五條園美
 脚本・演出:伊豫田静弘



月灯りの移動劇場「Peeping Garden」より。一人ひとり分かれた客席から舞台をのぞくパフォーマンスが……!!

●月灯りの移動劇場

『Peeping Garden』

2020年12月20日
 ダンスハウス黄金4422

2021年1月31日
 小牧市公民館

2021年2月7日
 知多市勤労文化会館

